

# 42 破天荒

令和 元年度版  
創刊  
第二十五号

## 四十二回生の入試が始まりました

令和元年十一月一日金曜日、四十二回生大学入試が始まりました。令和3年度大学入学者選抜大学入試英語成績提供システム共通ID登録申し込みが、本で行われたのです。

大学入試センターへの申し込みですから、四十一回生が九月から準備し、完了した大学入試センター試験申し込みとほぼ同じ要領で、四十二回生も中間考査の最中から準備をはじめ、本人達の記入方法のチェックをしながらの記入、担任のチェック、学年のチェック、進路指導部のチェックを受けての管理職決裁の後、今日の発送を迎えました。

たかが一枚と思われる個人用紙の申し込み、これだけの人の想いが込められていることを、本人・保護者の方もご理解ください。

今回は、申込金額は無料でした。しかし、センター試験(我々からは共通テスト)には、受験料が伴い、その振込控を申込用紙に貼付します。現役生は、自らの手で振り込みに行ける物理的な時間はありません。つまりは、保護者にそれを委ねるのですが、そのことを生徒は、当たり前前の権利と思わず、保護者への素直な感謝の気持ちを持つことができるか、そんなことも含めて、受験準備を行うことができるか、受験のスタートである申込書の記入を、ミスなく適切にすることができるか・・・。

今回の記入で見られたミスをお伝えします。

- ・ 学校番号・記号の書きミス
- ・ 番地等の1数字1マス書きのミス
- ・ 電話番号の市外局番の不理解
- ・ 住所の郵便番号知らず

時代は変わっているのでしょうか。こんなに、郵便番号や電話番号の記入にミス、時間の浪費がされているとは驚きでした。お陰で来年の共通テスト申し込みの予行演習ができたと思うようにします。

でき得れば、何事もスタートはきれいな形で、と考えるのですが・・・。

さて、保護者の皆様に問いかけます。以下は、職員室で聞こえた話です。この成績提供システムの申し込みと、時をほぼ同じくして、修学旅行でのスキー実習のための服装、ブーツサイズ等の調査用紙。いずれも、自宅に持ち帰らせて提出を要求しましたが、

さて、問題です。前者、後者ともに、提出期限を設けました。どちらの揃いが良かったでしょうか。因みに、優先順位とすれば、どちらの方が重みは上でしょうか。加えて、私は一体、保護者の皆様に生徒達のどんな課題を伝えたいと考えられますか？

基礎基本の徹底。言葉は簡単です。だから、日々の基礎基本の徹底が、どれほど大切なことなのか、さあ、今このときから始めましょう。

## と、つい先日配布した破天荒第二十四号が保護者の皆様の手元に届くまでに

文部科学大臣より、高大接続改革の目玉の一つ、大学入試英語民間試験の導入を延期するとの発表が、一方的になされました。

折しもこの日は、本校四十二回生においても、上記に示したとおりの過程を経て、進路指導部のお手を借りてまさに、英語成績提供システム共通ID発行申込書発送とともに、四十二回生の大学入試が船出をする予定でした。

本校としましては、学年の先生方の授業を中心に、生徒達はどう捉えるべきかを話しております。ただ、保護者の皆様におかれては、この延期によって、生徒達に何がどう不利に働くのかという観点でのご不安もありません。

入試改革について、自分なりに描いてきた私見ですが、今回の騒動、これから広がるかもしれない騒動について、主任としての意見、今後の展望、保護者へのご理解、ご協力を述べたいと思います。

### 一、見えなかつた民間試験得点化についての霧がかなり晴れた

英語の民間試験の得点化には、見えない大きな疑問が現場にはありました。それが、受験に関してほとんどが、今までの大学入試で要求されていた受験資格等の情報をベースに、考えることにはなっていないでしょうか。今後、受験資格等に新しい導入を考える大学ならば、このタイミングで導入するには、世間、受験生を悩ませることがないような具体的な情報に、普通は精査して発表するはずですが。

### 二、予約した英検について

資格ありきで申し込みをしたわけではないはずですが、確かに、大きな受験料が動いています。英検協会自身も、制度導入延期によって、より適正な方法・受験料等の検討がなされるはずですが、せっかく、自らの受験生活をスタートさせ、目標とする大学受験・進学を目指すために、この機会を利用しようと思ったはずですね。私の私見です。お金がかかることだから絶対とは言いませんが、もし今回の英語民間試験導入延期発表があったとして、自分達が決めた進路実現の道が順調に進んでいるかどうかの指標として、三年生前半の英検受験機会を希望した生徒は、二年十一月からの、特に英語に対する自分の努力を、自信に変える材料になるようにこのまま受験機会を生かしたらと、本心では思っています。

これから先も、さつそく共通テストの国語の記述、数学の記述も延期などという話が、新聞紙上では踊っています。この一年半、様々な行事等で得た経験を、字数制限を設けながら表現してきたことは、大半の生徒にとつてはどう感じているのでしょうか。

文章を書くためには、少なくとも材料を揃える、整えることが必要です。文章を整えるためには、書いたものを読み、自分の言いたいことに思いを込め、文章に流れをつける必要があります。文章を読み、内容を精査し、考えをまとめることは、別に今までも、応用問題を解くためにやっていたことと変わるものではありません。

ですから、引き続き今後も、文章を読む機会を増やす必要はありますが、今回の件で、特に新たな準備をする必要はないと感じています。

四十二回生の受験は、世の中の諸々の思惑に大きく振り回される形でスタートしました。私達としては、今まで取り組んできたことをしっかりと継続して、結果に繋げましょう。
